

リスのかんさつシート

子ども動物園にいる木の上で生活するリスを観察しよう！

木の上で生活するリスの仲間

しっぽを描いてみよう！

行動をかんさつ！ 見られたものに○をしよう

() 巣穴に入っていた

() しっぽを動かしていた

() 木の上を走っていた

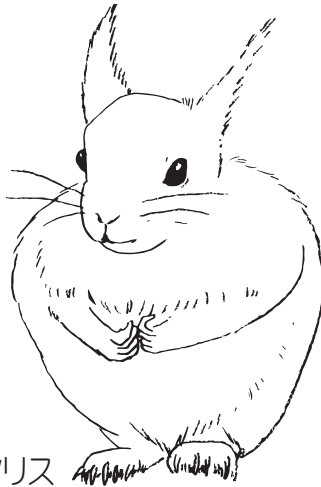
() 木から木へ飛び移った

() じっとしていた

() エサを食べていた

() うんち・おしっこをした

() その他



ニホンリス




ミケリス

リスの仲間には、木の上ではなく地上で暮らす「プレーリードッグ」もあります。木の上で暮らすリスと比べて、同じところや違うところを探してみよう。


• どんなしっぽ？ 描いてみよう。

• 前肢はどれ？ 線でむすんでね。


• 同じところや違うところは？




プレーリードッグ



ニホンリス



プレーリードッグ



ニホンリス

発見したこと

似ている動物を探そう！

• リスのように、エサを前肢で持って食べることができる動物は？

() ゴリラ

() テンジクネズミ

() レッサーパンダ

() ライオン

() アジアゾウ

() チンチラ

学校名

名前

先生用 リスのかんさつシートと解説

ワークシートのねらい リスの行動や体の特徴を観察することを通して、リスへの興味・関心を引き出すと共に、野生での生活環境を考えるきっかけとする。

リス 齧歯目リス科

・リスとは、齧歯目リス科に属する動物の総称です。

動物公園には、ニホンリス、ミケリス、プレーリードッグの3種のリスの仲間がいます。

和名	ニホンリス	ミケリス	オグロプレーリードッグ
			
分布	日本の本州、四国、九州の平地から亜高山帯までの森林地帯に生息しています。樹上性で、比較的平地の松林などに多く見られます。	タイ南部、マレーシアおよびその近隣の島々の森林地帯に生息しています。ほとんど樹上で生活しています。	北アメリカ中央部の開けた草原地帯やサバンナに生息しています。
食性	若葉や木の実、芽、果実、きのこ類などを食べていますが、雑食性で、昆虫や小鳥の卵も食べます。	イチジクなどの果実や木の実、芽、茎などを主に食べますが、雑食性で、昆虫や鳥の卵などの動物性のもも食べます。	主にイネ科の植物の葉や茎などを食べています。季節に合わせて、木の根や球根、木の実、樹皮、花など様々な植物を食べたり、たまにバッタや甲虫などの昆虫類も食べます。
動物公園で与えているエサ	クルミ、かぼちゃの種、煮干、干しぶどう、ニンジン、サツマイモ、カボチャ、リンゴ、ミルワーム	クルミ、かぼちゃの種、煮干、干しぶどう、ニンジン、サツマイモ、カボチャ、リンゴ、オレンジ、トマト、ミルワーム	かぼちゃの種、煮干、干しぶどう、ニンジン、サツマイモ、カボチャ、リンゴ、小松菜、青草、ミルワーム、ペレット

■ 生活環境に適した体のつくり

ニホンリスとミケリスは、樹上で生活しているため、地上で暮らすプレーリードッグに比べ尻尾が長いのが特徴です。ふさふさの長い尻尾で、木登りやジャンプする際にバランスをとるのに役立っています。また、リスの尻尾は、動きによって仲間同士のコミュニケーションをとる役目も果たしています。尻尾の動きにも注目して、観察すると良いでしょう。

また、樹上性のリスは木につかまって登るために鋭い鉤爪が、陸上性のリスは地面に巣穴を彫るために頑丈な爪があります。さらに、樹上性のリスは後ろ肢の爪が上向きになり、樹皮をつかみやすくなり、頭を下にして木を降りることができます。

■ エサは前肢で持って食べます

リスの仲間は、前肢を器用に使い、エサを手を持って食べます。ニホンリスなどクルミを殻のまま与えると、手でクルミを回しながら、硬い殻を歯で削り、きれいに半分に割って食べます。



■ 天敵から身を守る方法

とても警戒心が強く、樹上性のリスは動きがすばやく、地上に降りると、食べる時以外は動き続けたり、まわりを見渡したり、耳をすませて、まわりの様子をうかがっています。また、ミケリスの鮮やかな三色の体色は保護色となっています。

一方、地上性のリス、プレーリードッグは危険が迫るとするどい声をあげて仲間に伝えます。すると、仲間は一斉に巣穴に入り身を隠します。この鳴き声が、「キャンキャン」とイヌの鳴き声に似ていることから、「プレーリードッグ」と名づけられました。また、鳴き声は何種類もあり、様々なことを鳴き声を使って伝えていると考えられています。

* 飼育員のコラム 『ニホンリスの冬支度！』*

ニホンリスは、日本の固有種とされており、森などで見ることができます。ニホンリスは冬眠しません。野生でも冬前になると、ドングリやクルミなどを地中に埋めて蓄える習性があります。動物公園でも、冬前になると、毎日のエサの中に入っているクルミを巣箱の中に蓄えています。冬でも毎日エサはあげるのですが、やはり野生の本能なのでしょうが、毎年必ず冬前にはエサの蓄えをはじめます。

冬支度はこれだけではありません。毛も夏毛から冬毛に生えかわり、全体的にふっくらと温かそうな毛並みになります。そして、耳の毛も伸びて、耳も寒さから守ります。日本には四季があるので、季節によって、動物の見た目にも行動にも変化がみられるのが日本の動物のおもしろいところです。

